

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや ユニット1		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成29年11月18日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成30年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、花壇の世話や畑の野菜の収穫、夏は花火大会、冬は餅つきを楽しんでいる。季節を感じて頂く為に、ドライブに出掛けている。ホーム内の掃除や洗濯物を干し、取り込み、畳むこと等を一緒に行っている。入居者個々の出来る能力を生かせる様に、又、喜びのある日々を過ごして頂ける様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ログハウス風のホームには、広い庭がある。野菜、花コーナーがあり、収穫は入居者の楽しみとなっている。また、居室からの眺めが良く、気分転換になる。職員は公民館や神社の清掃を行い、地域からは行事への招待や野菜の差入れ、地域の見守り等、根付いた地域連携はホームの強みである。職員の年齢層も幅広く、不得意分野を得意分野で補いチームで支援している。意見、要望は代表に届く仕組みがあり、処遇改善により職員の定着に繋がっている。介護計画は、利用者の24時間の記録を基に、ケアプラン導入シートにて詳細に分析し次のプランへ繋げている。介護度が進行する中、これまでの個人記録の積み重ねは、入居者・家族の財産である。リビングから聞こえる職員と利用者の歓談の声は身内のように温かく、キッチンの食事の匂いで人との暮らしが感じられる家庭的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議など機会があるごとに全職員が共有し、実践につながるように働きかけている。	理念は、ホーム内に掲示している。理念に沿った介護支援について職員会議で話し合っている。職員と考えた年間目標は、年度末に振り返り、新たな目標へ繋げている。入居者のこれまでの生活環境を保ちながら、笑顔で過ごして貰うため職員はチームとなって理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町費を払い、自治会の一員として回覧板を隣宅へ入居者と一緒を持って行っている。お米は地域の方から購入し、野菜など地域の方から頂くことがある。	自治会に加入し、町内連絡網や回覧板で地域情報を得ている。職員は、総会出席や公民館・神社の清掃など参加している。地元の米を購入したり、近隣住民から野菜や花の差し入れがあるなど、良好な関係である。地域行事だけでなく、地域に溶け込み日常的ななじみの付き合いがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年春にあるお花見に招待して頂いているが、入居者の体調や天候不良で参加できていない。年2回の避難訓練には、近隣の方にも参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実践している。各々の立場から意見交換し、情報を共有する良い機会になっている。	2ヶ月毎に開催し、入居者状況、行事報告の他、意見や情報交換を行っている。開催前にリスクマネジメントセミナーや職員の内部研修を行っており、職員レベルアップのための有効な時間活用としている。メンバーからの意見で、ヒヤリハットの対応策報告に繋げた反映例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会でも相談に乗って頂いている。運営推進会議にも参加して頂き、指導や情報交換を行っている。月1回、さわやか介護相談員にも来て頂いている。	管理者は、介護保険に関することや提出書類の手続きで、窓口訪問や電話にて情報や助言を得る等、日頃から協力関係を築いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。職員は、活動報告書を入居者の支援見直しに役立てている。市の研修案内に、職員は参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないホームとして頑張っている。安全対策として、離床センサーや車道に面した出入り口にはドアセンサーを取り付けている。	事故防止委員会職員が、諫早市グループホーム連絡協議会主催の身体拘束に関する研修や他外部研修を受講している。職員は言葉による拘束についても把握している。外部講師を招き、リスクマネジメントの研修を全職員受講している。日中は施錠せず、職員が見守り支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、それを会議で全スタッフが知識を共有し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待に当たる行為がなかったか全スタッフがお互いに注意しあえる雰囲気を作れるように努力している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守る為、関係者と話し合いながら、制度を理解し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いたうえで、契約や解約をした頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は入居時に説明し、ホーム内にも掲示している。玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない。	利用開始時に、相談窓口や意見箱について説明している。管理者が家族訪問時対応し、入居者のホームでの様子を報告し、意見や要望を尋ねている。職員と入居者の交流を深める会を開催したり、ホームイベントへ家族を案内するなど、話を聞く機会を設けている。但し、ホーム運営など表す機会が少なく、意見も個人支援にとどまっている。	ホーム便り等を活用し、家族からの意見を表すことができるような取組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行い、必要時には随時話し合いの場を作り、提案や意見交換を行い反映出来る様にしている。	月の職員会議や日々の申し送りだけでなく、日頃から職員は意見や要望を提案しやすい。現場の意見は管理者がまとめ、代表へ提案している。また、職員は勤務要望提出時、封書にて直接代表へ意見を伝える手段もある。希望休やシフトは、職員が働きやすい環境に反映している。必要備品の購入や手すりなど設備設置もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては、勤務時間に配慮し、資格手当を付与している。職員及び家族の環境を考慮し、働きやすい条件を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時スタッフ会議で、ケアに対する問題点など改善しながら実施出来る様指導している。外部の研修は、出来る限り交替で参加出来る様に勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修などで同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いに行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、御本人の言葉に耳を傾け、これまでの生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族の心配事や不安・困っている事・要望などをじっくり耳を傾ける様にし、記録に残して全職員が情報を共有し、出来るだけ期待に沿うように努力している。問題が生じた時は、連絡を密に行い、一緒に解決出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にとって、一番必要な支援が何であるかを良く見極めてから、サービス利用を家族と良く話し合っ、検討していく様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物・後片付け・掃除・洗濯物干し・洗濯物畳み・畑や花壇の世話等を一緒に行っている。毎日の生活の中で、何か小さな事でも楽しみを持って生活して頂ける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪された際には、本人の日頃の様子を報告したり、相談に乗っている。面会の少ない家族にも、広報誌を郵送したり、電話を入れて状況を知らせる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊は自由にされている。電話や面会などいつでも出来る体制を取っている。	利用開始時に、入居者の生活歴を聴取している。得た情報はフェイスシートにまとめ、後日得た情報は加筆し職員間で共有している。家族や知人の訪問は自由である。職員が企画し、入居者が知人に会うために、喫茶店に出掛けている他、外食や外泊は、家族の協力を得ている。電話で家族と話したり、馴染みの人間関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事での小競り合いもあるが、職員が間に入ってその場を取り持ち、他のユニットを訪問するなどして、お互いの関係を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院のまま退去に至った入居者様には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時には、お通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉掛けや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合にはケア会議を行い、毎日の介護の中で気付いたら、申し送りや申し送りノートで情報を共有している。	職員は、入居者の1日の生活習慣を把握している。日々生活する中で発した言葉や入浴時のゆっくりした時間に思いを聞き取り、聞き取った意向は、口頭や申し送りノートで職員で共有している。発語困難時は、ゆっくり語りかけ入居者の顔の表情や頷くしぐさで、気持ちを読み取っている。記録を追記し、支援に繋げるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。入居後の生活の中で、本人との何気ない会話の中から言葉を拾い、センター方式の記録に残し、情報を全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの1日の過ごし方等を把握し、対応している。介護記録・特記事項のほか、受診ノート・申し送りノートに記入し情報を全職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合いケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感・問題点の意見を聞き、把握しながら作成している。	介護計画は、長期1年、短期6ヶ月で作成し、家族の同意のもと実施している。モニタリング評価は、6ヶ月毎に行っている。更新時は、日々の入居者の言葉や職員情報、看護師連絡ノートからの情報を詳細に纏めたケアプラン導入シートを新たに作成し、次のプランに繋げている。ただし、利用開始時の暫定プランがない。	利用開始時から本プラン作成までの暫定プランを作成し、利用者、家族に説明をし、同意を得ることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表を作成し、毎日チェック出来る様にしている。特記事項欄を広くとり、入居者の情報を共有出来る様にして、実施やケアプランの見直しに生かせる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの入居者様の担当職員を決め、個々の願いを達成できる事を目標に、計画・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関先などで地域の方々の来訪時に会話をしている。地域の行事にも招待を受けているが、体調や天候不良などがあり、参加できていない。地区の清掃活動には、職員が参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め、定期的に受診し家族に報告している。他の病院を受診するときには、事前に必ず家族に報告し、了承を得る様にしている。	かかりつけ医は、職員が受診支援している。家族対応の場合は、受診結果を報告し合い共有している。訪問看護師の連絡ノートで、入居者状況を職員は把握している。職員はアイデアを結集し、誤薬を防ぐ工夫を行っている。夜間緊急時は、訪問看護師の指示を仰いだり、主治医への連絡にて適切な医療を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に健康チェックに来て頂き、気軽に相談できる関係である。24時間体制なので、入居者様の状態に変化があった場合、適切な助言と医療関係者との連絡・受診をスムーズに行う事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や研修等で顔を合わせる機会が多く、普段から相談させて頂いている。入居者様の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画等、訪問看護も含めて話し合うことにより、当グループホームへ復帰できた入居者様も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約するにあたり、家族に説明を行った。入居時にも家族に説明をしているが、重症化した場合、現状として病院への転院をするまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。	利用開始時、重度化した場合における対応に係る指針を基に、家族に説明し同意の署名を得ている。家族に入居者状況を段階的に伝え、家族の協力なしには看取りができないため、主治医や訪問看護師を交え話し合い、ホームで対応できる範囲までの支援を行っている。その後、医療機関への移行がスムーズに行えるよう協力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け、資格を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年1～2回、消防職員の立会いの下避難訓練を行っている。勤務に入る前には入居者様の人数を把握している。夜勤に入る前には、緊急時のシュミレーションを行うようにしている。ホーム内の居室などの配置図を訓練の都度、消防署へ提出している	消防署立合い、自主火災訓練を各々1回、夜間想定、水消火器を使用した訓練、入居者参加の避難訓練を実施している。連絡網に消防団員が加わり、地域住民の参加もある。自然災害は、地域総代と対応策を協議し、夜勤職員を増員したり、食料を多めに調達する等、早めに行動している。尚、持ち出し品、備蓄品とも整備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際には、ノックや声掛けをするようにしている。排泄・入浴・更衣・軟膏塗布などの場合、カーテンを閉めたり居室で行うなど、プライバシーやプライドを傷つけない様に、言葉掛けや対応を工夫して行っている。	個人書類は事務所に保管している。職員は守秘義務の誓約書の他、入居者の写真使用の同意書もある。入居者の羞恥心に配慮し、トイレ誘導時の声掛けは耳元で行っている。また、プライベートな内容は居室や入居者の傍で話している。ただし、職員が入居者の状況を共有するための場所や言会話の内容に配慮が必要である。	利用者の状況を口頭申し送りする場合、細心の配慮が必要である。場所や声の大きさ、言葉遣いなど見直しに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来る様に声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく添える様に対応している。一人ひとりのペースを大切にして、業務優先にならない様に常に会議などで話し合い、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人ひとりに合った、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者様と一緒に、野菜の下ごしらえ・後片付け等手伝って頂くようにしている。その際には、衛生面・安全面に十分に配慮して行うようにしている。	職員で構成する衛生委員会が、入居者の嗜好や旬の食材を考慮しながら、献立を作成している。庭で栽培した野菜を収穫したり、食材購入に同行したり、下準備を手伝う入居者もいる。弁当持参で出掛けたり、庭で焼き芋や餅つきなど、楽しむ工夫がある。誕生会のケーキ作り、季節の行事食は、入居者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方にあった質・量で提供している。また水分摂取は工夫しており、夏場は特に多めに摂取出来る様に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人ひとりに合わせて歯磨き・うがいを行っている。仕上げ磨きが必要な入居者様にはスタッフが行っている。定期的に歯科受診・往診を行い、口腔内の清掃・点検を行って。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間置きのトイレ誘導を行っている。また、自立・見守りの方で、リハビリパンツなどを使用している場合には、さり気無く声掛けを行い、交換を行っている。	日中はトイレでの座位排泄を支援している。排泄パターン表を個別に作成し、支援内容を検討している。自立している入居者には、過度な介助はせず、見守り排泄状況をさりげなく確認している。パッドサイズや使用方法を検討し、現状確保に努めている。パッド交換時は、必ず清拭し、皮膚の清潔保持と肌荒れを防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(リンゴ・バナナ)や野菜、ヨーグルト等を多めに取り入れた料理を提供したり、体操などで体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬等を医師・訪問看護師と相談の上調整し、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置の都合上、午前中を中心に入浴を利用して頂いている。一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をしている。	日曜日以外は入浴を準備し、週2回を目安に入浴介助している。体調が悪く入浴できないときは、清拭と無水シャンプーを用いて、清潔を保持している。ホームでは入浴拒否がなく、柚子湯やしょうぶ湯、好みの湯温など、入居者が心地よく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり、休んで頂いているが、自力で居室に戻ることが出来ない入居者様には、本人の訴えや体調・時間をみて、本人の希望を聞いて居室へ誘導・休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局から処方薬の説明書を、個別日誌に綴っており、職員全員が目を通すようにしている。また、内服薬等が変更になった場合は個別日誌と申し送りノート・薬保管場所にもその旨を記載している。訪問看護とも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応し、ドライブや買い物・散歩など支援している。また、担当職員と1対1で入居者様とやりたいことをして頂ける様に、時間を確保出来る様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	衣料品店・ドライブ・公園等、積極的に誘っている。	入居者の体調や天候に配慮しながら、個別に外出支援している。入居者は職員とホームの庭で野菜や花を栽培し、収穫も一緒に行っている。餅つきや焼き芋など行事を企画し楽しんでいる。買い物やドライブも実施している。花見など季節ごとに遠出ドライブを実施し、弁当を持参し外出を皆で楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者様はおられず、事務所に保管し、外出時に好きな物を購入して頂いている。入居者間の金銭トラブルがある為、基本的にはグループホームでの立替をお願いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物が届いた時にはお礼や、入居者様からの要求があった場合は、電話をして頂いている。また、年賀状を入居者様と一緒に書きご家族へ出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。又、リビング内にはよく日が入り、カーテンなどで調整している。	大きな窓からの採光も良く、木々や畑がウッドデッキより望め、季節を感じることができる。食堂の調理風景や入居者と職員との会話から、家庭的な温かさが窺える。ゆったりとした時間の中で、入居者は、好きな位置でソファに座り、思い思いに寛いでいる。職員による朝の清掃と換気、手指消毒や加湿で、感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自身に座る位置を決めて頂き、自由に寛いだり、それぞれ自分の気の合う入居者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されたい筆筒などを持ってきて頂き、出来るだけ心が落ち着くように配慮している。出来る限り換気をしているが、出来ない時には消臭スプレー等も活用することもある。	筆筒や椅子等、使い慣れた物を自由に持込んでいる。家族写真や誕生日の色紙やぬいぐるみで飾ったり、仏壇や位牌を置き、心を落ち着かせる入居者もいる。電動ベッドや床に布団を敷くなど就寝形態もさまざまで、入居者の動線に合った配置となっている。職員による朝の清掃と換気、温度管理で気持ちよく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所・浴室・プライバシーが守られる範囲での自室の張り紙や矢印、時計・カレンダーをいつも目に入る所に設置している。1階のスロープは体力作りに活かしており、2階の入居者様には階段を使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400817		
法人名	有限会社 季節の花		
事業所名	グループホーム いさはや ユニット2		
所在地	長崎県諫早市福田町1673-8		
自己評価作成日	平成29年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山小屋風の木造作りで庭が広く、花壇の世話や畑の野菜の収穫、夏は花火大会、冬は餅つきを楽しんでいる。季節を感じて頂く為に、ドライブに出掛けている。ホーム内の掃除や洗濯物を干し、取り込み、畳むこと等を一緒に行っている。入居者個々の出来る能力を生かせる様に、又、喜びのある日々を過ごして頂ける様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議など機会があるごとに全職員が共有し、実践につながるよう働きかけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町費を払い、自治会の一員として回覧板を隣宅へ入居者と一緒に持って行っている。お米は地域の方から購入し、野菜など地域の方から頂くことがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年春にあるお花見に招待して頂いているが、入居者の体調や天候不良で参加できていない。年2回の避難訓練には、近隣の方にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実践している。各々の立場から意見交換し、情報を共有する良い機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡協議会の研修で講演をして頂いたり、交流会・意見交換会でも相談に乗って頂いている。運営推進会議にも参加して頂き、指導や情報交換を行っている。月1回、さわやか介護相談員にも来て頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないホームとして頑張っている。安全対策として、離床センサーや車道に面した出入り口にはドアセンサーを取り付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加し、それを会議で全スタッフが知識を共有し虐待防止に努めている。毎日の介護の中で、虐待に当たる行為がなかったか全スタッフがお互いに注意しあえる雰囲気を作れるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利を守る為、関係者と話し合いながら、制度を理解し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者や管理者が重要事項や契約内容を十分に説明し、理解して納得して頂いたうえで、契約や解約をした頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の相談窓口は入居時に説明し、ホーム内にも掲示している。玄関に意見箱を設置しているが、意見は入っていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を行い、必要時には随時話し合いの場を作り、提案や意見交換を行い反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に関しては、勤務時間に配慮し、資格手当を付与している。職員及び家族の環境を考慮し、働きやすい条件を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時スタッフ会議で、ケアに対する問題点など改善しながら実施出来る様指導している。外部の研修は、出来る限り交替で参加出来る様に勤務体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会合や研修などで同業者と交流する機会が多い。近隣のグループホームの訪問もお互いに行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くと共に、御本人の言葉に耳を傾け、これまでの生活歴や心身の情報など分かる事から記録に残し、全職員が情報を共有出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族の心配事や不安・困っている事・要望などをじっくり耳を傾ける様にし、記録に残して全職員が情報を共有し、出来るだけ期待に沿うように努力している。問題が生じた時は、連絡を密に行い、一緒に解決出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人にとって、一番必要な支援が何であるかを良く見極めてから、サービス利用を家族と良く話し合って、検討していく様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と買い物・後片付け・掃除・洗濯物干し・洗濯物畳み・畑や花壇の世話等を一緒に行っている。毎日の生活の中で、何か小さな事でも楽しみを持って生活して頂ける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来訪された際には、本人の日頃の様子を報告したり、相談に乗っている。面会の少ない家族にも、広報誌を郵送したり、電話を入れて状況を知らせる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・外泊は自由にされている。電話や面会などいつでも出来る体制を取っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細な事での小競り合いもあるが、職員が間に入ってその場を取り持ち、他のユニットを訪問するなどして、お互いの関係を保てるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院のまま退去に至った入居者様には、職員が交代でお見舞いに行ったり、亡くなられた時には、お通夜や葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉掛けや表情を読み取りながら、意向の把握に努めている。困難な場合にはケア会議を行い、毎日の介護の中で気付いたら、申し送りや申し送りノートで情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の情報を頂いている。入居後の生活の中で、本人との何気ない会話の中から言葉を拾い、センター方式の記録に残し、情報を全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを1日3回必ず行い、一人ひとりの1日の過ごし方等を把握し、対応している。介護記録・特記事項のほか、受診ノート・申し送りノートに記入し情報を全職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り本人にも要望を聞き、家族と話し合いケアカンファレンスにて、職員のケアプランに関する達成感・問題点の意見を聞き、把握しながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表を作成し、毎日チェック出来る様になっている。特記事項欄を広くとり、入居者の情報を共有出来る様にして、実施やケアプランの見直しに生かせる様に努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの入居者様の担当職員を決め、個々の願いを達成できる事を目標に、計画・実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関先などで地域の方々の来訪時に会話をしている。地域の行事にも招待を受けているが、体調や天候不良などがあり、参加できていない。地区の清掃活動には、職員が参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にてかかりつけ医を決め、定期的に受診し家族に報告している。他の病院を受診するときには、事前に必ず家族に報告し、了承を得る様にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に健康チェックに来て頂き、気軽に相談できる関係である。24時間体制なので、入居者様の状態に変化があった場合、適切な助言と医療関係者との連絡・受診をスムーズに行う事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診や研修等で顔を合わせる機会が多く、普段から相談させて頂いている。入居者様の状態により、治療方針や退院に向けての支援計画等、訪問看護も含めて話し合うことにより、当グループホームへ復帰できた入居者様も多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護を契約するにあたり、家族に説明を行った。入居時にも家族に説明をしているが、重症化した場合、現状として病院への転院をするまでには、家族の気持ちもあり難しい問題になっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の研修を全職員が受け、資格を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年1～2回、消防職員の立会いの下避難訓練を行っている。勤務に入る前には入居者様の人数を把握している。夜勤に入る前には、緊急時のシュミレーションを行うようにしている。ホーム内の居室などの配置図を訓練の都度、消防署へ提出している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際には、ノックや声掛けをするようにしている。排泄・入浴・更衣・軟膏塗布などの場合、カーテンを閉めたり居室で行うなど、プライバシーやプライドを傷つけない様に、言葉掛けや対応を工夫して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床・就寝時間は、本人の意思に沿って支援している。日常生活の中で自己決定が出来る様に声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	要望がある時は、なるべく添える様に対応している。一人ひとりのペースを大切にして、業務優先にならない様に常に会議などで話し合い、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人ひとりに合った、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から入居者様と一緒に、野菜の下ごしらえ・後片付け等手伝って頂くようにしている。その際には、衛生面・安全面に十分に配慮して行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量も異なるので、その方にあった質・量で提供している。また水分摂取は工夫しており、夏場は特に多めに摂取出来る様に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人ひとりに合わせて歯磨き・うがいを行っている。仕上げ磨きが必要な入居者様にはスタッフが行っている。定期的に歯科受診・往診を行い、口腔内の清掃・点検を行って		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間置きのトイレ誘導を行っている。また、自立・見守りの方で、リハビリパンツなどを使用している場合には、さり気無く声掛けを行い、交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物(リンゴ・バナナ)や野菜、ヨーグルト等を多めに取り入れた料理を提供したり、体操などで体を動かして頂いている。個々に応じた便秘薬等を医師・訪問看護師と相談の上調整し、無理なく排便コントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置の都合上、午前中を中心に入浴を利用して頂いている。一人ひとりの入浴のタイミングもあるので、個々に応じた声掛けの工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休息したり、休んで頂いているが、自力で居室に戻ることが出来ない入居者様には、本人の訴えや体調・時間をみて、本人の希望を聞いて居室へ誘導・休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院や薬局から処方薬の説明書を、個別日誌に綴っており、職員全員が目を通すようにしている。また、内服薬等が変更になった場合は個別日誌と申し送りノート・薬保管場所にもその旨を記載している。訪問看護とも情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る限り対応し、ドライブや買い物・散歩など支援している。また、担当職員と1対1で入居者様とやりたいことをして頂ける様に、時間を確保出来る様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	衣料品店・ドライブ・公園等、積極的に誘っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者様はおられず、事務所に保管し、外出時に好きな物を購入して頂いている。入居者間の金銭トラブルがある為、基本的にはグループホームでの立替をお願いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物が届いた時にはお礼や、入居者様からの要求があった場合は、電話をして頂いている。また、年賀状を入居者様と一緒に書きご家族へ出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物を飾り、楽しい雰囲気を出している。又、リビング内にはよく日が入り、カーテンなどで調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自身に座る位置を決めて頂き、自由に寛いだり、それぞれ自分の気の合う入居者様同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されたい筆筒などを持ってきて頂き、出来るだけ心が落ち着くように配慮している。出来る限り換気をしているが、出来ない時には消臭スプレー等も活用することもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所・浴室・プライバシーが守られる範囲での自室の張り紙や矢印、時計・カレンダーをいつも目に入る所に設置している。2階の入居者様には階段を使用して頂いている。		